
真剣で私に恋しなさい!世界…

嘘月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真剣で私に恋しなさい－世界…

【著者名】

ZZコード

【作者名】 嘘月

【あらすじ】

平和?な風間ファミリーに新たな仲間!…?が入る……のか?

まだまだ（前書き）

川神市に毎年恒例の「例の祭り」が始まる時期がやつてきました

まだまだ

「」は、日本国、神奈川県、神川市のある神社……の入り口

「やっぱり帰らない？秘密基地で遊びましょ？」

川神一子（通称：ワンコ）が直江大和の腰にしがみつきながら駄々をこねていた。

「しつこいぞワンコ、何がそんなに嫌なんだ？」

ワンコが、川神百代（大和限定：姉さん・ワンコ限定：お姉様）から大和の腰から引き剥がされると子犬が、首根っこを持たれた様な格好になりながら宙ぶらりん状態で、涙を浮かばせながら呟いた。

「うう……分かつてゐるくせにお姉様のイジワル」

「じゃあキャップ達も待つてゐるだらうしそろそろ行こうか姉さん」

大和がわざと聞こえてないふりをして百代に話しかけると、ワンコは必死に逃げようとするが首根っこを捕まえている百代の手が離れずズルズル引きずられながらワンコの遠吠えのような叫びが虚しく聞こえてくるのだった

ちょうど大和達が、祭りに向かつた直後怪しい人影が忍び寄つてきていたのだった。

まだまだ（後書き）

感想が頂ければ更新します

あとがき（前書き）

短いですがよろしく（＾＾ゞ今回も感想が来しだい更新します

ワンコがちょっと黙々とこねていたその頃……

「な……なんなんだこれは……？」

ちょっと面白に事になっていた。

「あわわわ……キャップさんあそび……こやこやの出店の出店こやこやの祭りなんか変じやないですか？」

クリス（クリスティアーネ・フリードリヒ・ワンコ限定・クリ）と由紀江（黛由紀江・通称：まゆっち）が、顔を赤面にさせながらキャップ達を見ていた

「……」の祭りはね、ちょっと変わってるけど樂しそよ

キャップの代わりに京（椎名京）が顔色全く変えず淡々と話した

「し……しかしだなやはつこひら辺の出店に並んで……？」

クリスが喋っている最中に京が出店に並んでいたナードを口に突っ込んで黙らした

「ううん……ううん……？」

最初は、暴れていが味がよかつたらしく最後には、普通に食べて
いた

あとがき（後書き）

「意見・感想」とお待ちいたしました

じょと（前書き）

更新遅れています
感想をいただきしだいまた更新します

ちよつと

それぞれ2つのグループが面白くなつてゐるなか暑苦しい奴のいるグループは、といふと……

「おい、モロ（師岡 阜也・通称・モロ）あと何を運ぶんだ？」

暑苦しい日に暑苦しい奴が神輿に使う材木を運んでいた。

「材木は、それで最後だよ。あとは、見せ物用のアレと小道具を運べば終わりだよ」

「よつしやあなたあと人踏張りだな

「でもガクト（島津岳人・通称・ガクト）なんで、皆で、運ぶ筈だったのなんで、一人で運ぶなんて言つたの？」

ガクトは、顔だけ横に向けてきた

「そりゃあこおして一人で黙々と運んでいれば……格好いいじゃねーか

「はは……は」

モロは、苦笑いをするのだった

「うわ

その直後、モロの背中に何か当たつていつた

「那人捕まえてくれー」

モロに当たつていった人が通りすぎるとほぼ同時に後ろから中年男性が汗をかきながら必死に走ってきた

「ス、ス、ス、スリだ財布を盗られた捕まえてくれ」

「モロまだ神輿に使う材木は、残つてたよな。」

「予備は、一応あるけど…ってまさかガクトー!?」

モロがビックリした原因は、材木を槍投げの様に片手で掴んで今にも投げようとしていた。

「ぶつた押せ俺様ミニサイル」

ガクトは、全力で材木を窃盗犯に投げつけた

いくら窃盗犯でもあの神輿に使う材木が当たればひとたまりもないだろうとモロが思った時には、窃盗犯の目の前まで材木が迫つていた。

窃盗犯は、か〇はめ破を擊つように手首を合わせ手を広げて材木が、ちょうど手のひらに入った瞬間、手をねじりそのまま下から打ち上げるようにして掌底を決めた。

材木は、半分粉々になりカラーンカラーンと地面に落ちた所でガクト達は、ハツと現実に引き戻された。

ちよっと（後書き）

次回からちよっこ戦闘シーンが入ります
ご意見・ご感想どしどしお待ちいたします。

だる？（前書き）

更新遅れています
Thank you 2000アクセス

やる？

その跡、窃盗犯は、すぐに駆け出しガクト達も追い掛けた
「はあ、はあガクト、僕もう無理だよ先に行つて皆に連絡しとく
から」

「わかつた連絡任したぞ」

モロは、やはり体力が余りなくあつという間にガクトから距離が離
れていった

（しかしあいつかなり体力あるなさつきも余裕で材木破壊したしや
つぱり経験者か？）

ふとガクトが考えてすぐ窃盗犯は、走る速度を上げた
「チツまちやがれ」

ガクトも走る速度を上げたが何故かどんどん距離が離れていった。

やる？（後書き）

「J意見・「J感想どしどしお待ちいたします

やつでも（前書き）

遅れですいません

でつでも

ガクトが窃盗犯を追いかけている頃、他のメンバーは、集合してお
りモロの連絡を受けて窃盗犯を探していた。

「ワンゴ^匂いとかで探せないのか？」

「流石に無理よくあつ、でもガクトの匂いならわかるかも」

メンバー別れており「ワンゴ・クリス」「大和・百代・京」「キヤ
ツプ・まゆつち」で窃盗犯を探していた

「そつなかならいくぞワンゴー！」

「わかつてるわよ」

大和夫妻……百代ペア

「大和／大和／」

「京そんなにくつくな歩きずらいだろ」

「そつか大和、歩きずらいか」

「うわ、姉さんもくつくな」

百代も悪のりで大和にくつづいてきた

「窃盗犯捕まえて皆で祭りに行くんだから速く見つけないと」

大和が強引に逃げるよう二人を外した

「わかつて」いぬれ業よ……川神流〔千里眼〕」

百代は、堀の上に登つて千里眼で周囲を見渡すとニヤッと笑つて大和達を見て

「見つけた」いは、面白くなつて来たぞ」

百代は、そのまま壜の上を伝つていき大和と京は、後ろからついて
いった。

キャップ・まゆづちペア

「アホだ～キャラクター」

まゆつち……松風がキヤツナに少し不安そうに聞くとキヤツナは、道端に落ちている木の棒を拾つてくると棒をまゆつちと松風に向か
ニヤつと笑うと

「俺は、運いいんだぜ！！」

そう言うと同時に拾つた棒を宙に投げるとクルクルと棒が回りカラ
ンカラーンとある道の方向をさした

「いつちだぜ行くぞまゆつちに松風」

「松風……」こんなので大丈夫何でしそうか？」

「どうだらうな」

やつでも（後書き）

「J意見・「J感想どしどじお待ちいたします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7059y/>

真剣で私に恋しなさい!世界...

2011年12月21日12時54分発行